

大熱海漁協のヒラメ放流

大熱海漁協は、平成 28 年 5 月 13 日に熱海市曽我浦地先と伊豆山地先でヒラメ稚魚の放流を行ないました。放流したヒラメ稚魚は、静岡県温水利用研究センターで生産した平均全長 3cm の種苗 10,000 尾を、4 月 19 日から、大熱海漁協近くに設置した陸上水槽で中間育成してきたもので、放流時の平均全長は約 6cm、放流尾数は曽我浦・伊豆山あわせて 7,600 尾でした。

放流に際しては、熱海市立第二小学校と熱海市立伊豆山小学校の 5 年生の児童が参加しました。大熱海漁協では、海の資源を守ることの大切さを地域の子供たちに学んでもらうため、毎年、両校の児童の参加を得ています。その際当场からは、児童達に対しヒラメの生態や漁業などについて説明しました。児童達からは、ヒラメの食べ物、成長、捕り方などの質問がありました。

当地区でのヒラメ中間育成は、平成 27 年には中間育成中に滑走細菌症が発症し、生残率が 50%以下と低くなってしまい心配されましたが、今年は顕著な病気発生が無く生残率も 75%以上と昨年以前の状態になり、ほっとしているところです。しかし、来年以降も海洋条件などから今後も病気が発生する可能性もあります。今後も好結果に甘えること無く、病気が発生したときの対処法など検討していく必要があります。

(吉川康夫)



(写真1)ヒラメ中間育成水槽



(写真2)小学生による放流